

41. 肺炎入院患者の死亡率

肺炎で入院され、死亡された割合です。

肺炎は、肺結核、院内肺炎、日和見肺炎、閉塞性肺炎、大量誤嚥(胃酸)による肺炎、慢性下気道感染症の急性増悪などを十分に鑑別する必要があります。

(参考 日本呼吸器学会 成人市中肺炎診療ガイドラインより)

肺炎はわが国の死亡統計でも死因の第4位であり、初期治療の選択が重要です。原因となる病原微生物、治療を受ける場所、治療に携わる医師、抗菌薬がさまざまであることから、いろいろな治療が行われることから、退院時の転帰をみることで肺炎治療の病院成績をみることができます。

当院の定義・計算方法 肺炎入院患者の死亡率

分子: a 退院サマリーの病名で主病名が「肺炎」の患者数 で
退院転帰が死亡の件数

分母: b 退院サマリーの病名で主病名が「肺炎」の患者数

条件 主病名=*肺炎* かつ ICD-10分類 J10~J18
ICD-10=国際疾病分類第10版

当院の数値 各年1月~12月で集計

年	a 肺炎死亡退院数	b 肺炎退院数	a/b 肺炎入院患者 の死亡率
2006年	26	403	6.5%
2007年	16	356	4.5%
2008年	28	339	8.3%
2009年	28	376	7.4%
2010年	21	395	5.3%
2011年	34	349	9.7%
2012年	43	471	9.1%
2013年	24	332	7.2%
2014年	33	371	8.9%

コメント

呼吸器関係の学会ガイドラインを参考にした診断、治療に努めております。